



ロータリー：
変化をもたらす

宇都宮ロータリークラブ会報

RIテーマ「ロータリー：変化をもたらす」
宇都宮ロータリーテーマ「一歩前に進みましょう」
第2550地区ガバナーテーマ「チャレンジ&イノベーション」
～挑戦と変革で切り拓く、第2550地区の未来～
2017～2018年度RI会長イアンH. S. ライスリー 宇都宮会長 印出井敏英
第2550地区ガバナー 太城敏之 幹事 飯村 悟
例会日 火曜日12:30 会場 宇都宮東武ホテルグランデ 宇都宮市本町5-12
事務所 宇都宮市江野町1-12 橋木実業ビル2階 TEL 028-666-0555
E-mail u-rc01@silver.plala.or.jp FAX 028-666-0333

(2017)平成30年1月16日 第3228回 2017～2018年度(第24回会報)

会員数105名 出席者59名 出席率62.8% MU会員三井勝滋会員(小山東RC) 前回修正率75.3%

矢冶委員長 みなさま、こんにちは。本日当例会場にお見えのご来訪の皆様をご紹介します。まず初めに本日卓話を頂戴いたします真言宗智山派成願寺ご住職でいらっしゃいます福崎孝雄様です。続きまして小島ゆきなが様。所属クラブは東京銀座ロータリークラブでございます。以上、2名の方が本日ご来訪でございます。

印出井会長 皆さま、こんにちは。先週の新年会ですね、75名以上の方の賛同をい



ただきまして、参加をいただきまして本当に楽しく過ごすことができました。誠にありがとうございます。本日の卓話は私の菩提寺の成願寺のご住職さんをお願いしたんですけれども、戦後73年でしょうか。随分、日本は豊かになりました。私も小さい時にサツマイモとかカボチャとか随分食べさせられた記憶があるんですけれども、その後、代わりということではないんだと思うんですけれども、何か心の豊かさがなくなったのかな、というふうな気がしています。

それで私は小学校の時に父親からこれを読みなさいというふうなこと、読みなさいという本、何冊か読めと言われたんですけれども、これはですね。家族とか友人とか両親を大切にみなさいということが書いてあるんですね。教育勅語とか。この一番最初にですね。ここに古いものでは、「その子を思う」を見ても「父母の我らを愛するの熱きを知るべし」と。要するに両親の保護のもとに、ちゃんと育てているんだぞということが第一巻目に書いてあるんですね。このほかにはいろいろなことの人、家族とかそういうものを大切にしていましょうとことなんですけれどもね。

今非常に社会が変わってきてまして、少子化の影響もあるんでしょうけれども、なかなか親孝行ができない、最期の看取りというんでしょうかね、そういうものがない。まあ、ロータリークラブの方にはそういうことはないと思うんですけれども、今、東京あたりでは直葬というふうなものが3割以上というようなことで、非常にお墓を維持することがなかなかできないということなものですから、一度、現状はどうであるかなということを皆さんに知っていただいでですね、家族、我々が一生懸命子どもを育てて一人前にして、社会のために働いていただいで、我々は当然年を取ってくるとやはり体の衰えがあるわけですから、そういうような時にいろいろなお世話をお願い

いしたい、そういう風なことも含んで、今日お願いしてあるところです。大変お忙しい中、申し訳ありませんでしたけれどもどうぞよろしくお願いいたします。

それから続けてやってしまっているのでしょうか。それでは地区のほうから委嘱状が、届いていますので、町田会員、どうぞ登壇してください。第 2250 地区ライラ委員のご委嘱ということで、ガバナー、ガバナーエレクトから委嘱状が届いておりますのでお渡しいたします。よろしくお願いいたします。

それから米山の功労者として第 5 回マルチプルということで、近藤会員に礼状が届いておりますのでどうぞ。おめでとうございます。続きまして第 1 回米山功労者で粟飯原会員、今日は欠席ですね。片山会員、片山先生も欠席ですね。第 1 回の米山功労者ということで表彰状が届いております。それから宇都宮ロータリークラブに、米山功労クラブということで、感謝の意を表しますということで、感謝状が届いておりますので、皆様に回してご覧いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。以上です。

長谷川委員長 それでは 12 月入会の方の会議出席者を発表させていただきます。助川通泰様、在籍年数 34 年。稲野秀孝様、在籍年数 12 年。善林隆充様、在籍年数 12 年。いらっしゃいませんですかね。熊本勇治様、在籍年数 11 年。林幹夫様、在籍年数 10 年。伊原修様、在籍年数 4 年。藤澤智様、在籍年数 3 年。増田和浩様、在籍年数 2 年。以上です。

和田 お食事中ですけれども新入会員のご紹介を私、和田がやらさせていただきます。神宮厚さん。日神工業株式会社代表取締役ということで、私と同じような業種でございますけれども、どちらかという私と違う業種としてですね、機器の販売、空調機器の販売、日立の特約店ということで、そちらのほうが大きな私の会社と違うところでございます。地元の高校、大学を卒業いたしまして、どちらかという会社の後継ぎということでございましたけれども、税理士の資格を取られまして、自分で税理士を始めたのが平成 8 年ということでございます。それと同時に、日神工業さんにも、同時入社ということなんですが、ほとんど給料はもらわずですね、自分で税理士のほうで生計を立てていたということでございます。

ご家族なんですけれども、奥さんを亡くしましてお子さんが一人いらっしゃいます。ただ今申し上げました通り、日神工業の代表取締役として正式に税理士という自分の業をはずしてですね、入ってきたのはですね、2 年前、平成 28 年に入りました。私のほうにいろいろごあいさつなどいただきまして、たまたま皆さんご存知だと思うのですが、古い方はご存知かと思うんですけれども、日神工業の神宮さん今も在籍しておりましたけれども、この度の厚さんがご子息さんでございますので、代わりまして入会という形になろうかと思っておりますけれども、どうぞ皆さんですね、我々の業界としてもなかなか年数少ないんで、いろんなこととお話する機会がございますけれども、どうかこの会でですね、中には知ってる方もいらっしゃると思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。それでは本人の神宮厚さんより自己紹介をお願いいたします。

神宮 ただ今ご紹介をいただきました日神工業の神宮厚でございます。若輩者でございますが、皆様にご指導いただきますようどうぞよろしくお願いいたします。

印出井会長 よろしくお願ひいたします。

印出井会長 新年度になりましてですね、国際本部のほうから通達が来ております。その一つとして2017年決議審議会決定報告書というのが来ております。これは書簡と採択された決議書、それから採択された案件に関する投票集計ということが来ております。これは「マイロータリー」に入っていただくとご覧になれると思いますので、どうぞ皆様、なるべく「マイロータリー」への登録ですね、よろしくお願ひいたします。

それから2018年決議審議会の決議案の提出は、6月30日までということで、もし皆様方から何かあれば私を通して地区に、地区から今度は国際本部にいくんだと思いますのでよろしくお願ひいたします。それからガバナー事務所からですね、3月15日締め切りで友好姉妹クラブに関するアンケートが来ております。これは私と幹事で書いて提出をいたします。それから2018年6月23日から27日までトロントで国際大会が行われます。それが3月20日締め切り。さらに、この時に日本人親善朝食会というようなものが開かれるそうですので、国際大会に出席される方はよろしく、締め切り3月20日ですので、よろしくお願ひいたします。

それから女性ロータリアン会員増強のためのバレンタインコンサートが行われるようですけれども、締め切りは1月31日ですので、もしあれば私のほうにお願いいたします。それから第19回ロータリー国際囲碁大会というものが2580地区より案内が届いております。これはですね、RI公認の親睦団体で一番最初の団体だそうです。日本とアメリカ、韓国、台湾とで交互にいろいろ開催しており、今回は日本の主管ということで日本で開かれるようで、3月20日締め切りということで、4月22日に東京で行われますので、自信のある方は登録料1万8000円ですので私のほうにご連絡ください。それから宇都宮商業高等学校インターアクトクラブが昨年できまして、その認証状伝達式が2月18日に行われます。東ロータリーが提唱クラブになっておりますので、1月31日までということで、私とか幹事とか、何人出れるかまだ分かりませんが、出席してまいります。以上でございます。

司会 次年度の動きについて岡崎エレクトよりご報告がでございます。

岡崎エレクト 皆さんこんにちは。エレクトの岡崎でございます。早速なんですけど、もう次年度の動きがありまして、皆様にちょっと予定をご報告をさせていただきたいと思っております。来年のことになるんですが、地区のほうから地区の財団セミナーがあるということで、エレクト、もしくは幹事エレクトも含めた財団の委員長ということで、次年度のセミナーが2月の11日でございます。まだ次年度の財団の委員長は決まっておきませんので、今年度の阿部委員長と私と熊本幹事エレクトと3人で出席してきたいと思っております。

次にですね、2月の17日、これは関係の皆様にはメールがいつているかと思うのですが、地区チームの研修ですね。次年度の地区の委員の皆様には2月の17日の土曜日、これは1日になるかと思っておりますけれども、地区チーム顔合わせ及び研修というふうな形で、1日研修がございまして、これにはご出席をよろしくお願ひいたします。それから2月の25日と3月の11日、これにはPETSがありますので、これは私のほうで参加させていただきます。最後に、あ、もう一つあります。4月の8日、これが次年度の地区協議会がございまして、次年度ということになるんですかね。地区協議会がございまして、毎年ございまして、これが宇都宮クラブからは理事、役員の皆様

にはご出席いただくことになるかと思いますので、4月の8日、まだ会場は明確に分かっておりませんが、日程だけは来ておりますので、必ず出席をお願いしたいと思いますので、手帳にご記入をお願いいたします。そして最後に、一昨日、13日に次年度のガバナーエレクト、伊藤永峯ガバナーエレクトがガバナーの研修にアメリカにご夫婦で出発いたしましたというご報告をいただきましたので、皆様にもお知らせをしておきたいというふうに思います。以上でございます。よろしくをお願いいたします。

司会 ニコニコボックス委員会より報告がでございます。金成委員長お願いいたします。

金成委員長 皆さん、こんにちは。ニコニコボックス委員会の金成でございます。本日のご奉仕を發表したいと思えます。まず、本人誕生祝いとしまして菊池芳幸会員、奥様誕生祝いとしまして小池コイケフミヨシ会員、森田浩敏会員、太田周会員。太田会員からはコメントをいただいています。「50年ありがとう」ということで金婚式でございました。また、奥様誕生祝いとしましてマスダナカオ会員様から、「1月21日、妻の誕生日祝いにニコニコします」ということでいただいております。次に会出席祝いです、林幹夫会員、増田和浩会員、助川通泰会員、熊本勇治会員、フジサワサトシ会員からいただいております。最後にその他としましてワタナベハジメ会員様より、「昨日のラグビートップリーグにおいて、当社パナソニックワイルドナイツは2位の好成績に終わりました。来年はサントリーさんを破って、首位奪還を狙います」ということでご奉仕をいただいております。本日のご奉仕でした。ありがとうございました。

司会 本日の例会のプログラムのご紹介を、松本委員長よりよろしくお願ひします。

松本委員長 皆様、こんにちは。本日の卓話は招待者卓話でございます、真言宗智山派成願寺ご住職の福崎孝雄様をお迎えして、「最近のお墓事情から思うこと」と題してお話を伺います。福崎様は宇都宮市ご出身で平成20年から現職である成願寺のご住職をお務めでいらっしゃいます。それでは福崎様、よろしくお願ひいたします。

福崎住職



はい、よろしくお願ひをいたします。ご紹介をいただきました福崎孝雄と申します。よろしくお願ひをいたします。今の紹介ではなかなか分からないかと思えます。が、お寺がどこにあるかという、田舎のほうでございます。インターパークの東のほう、瑞穂野団地の若干、南東のほうになるんでしょうか。西刑部町というところでございます。何で有名かという、有名なものは一つしかありません。イチョウの木が市の天然記念物になっておりますので、一応それが多分ネットか何かで引っかかってきて、それで成願寺というのが出てくるかもしれませんけれども、成願寺はそういうホームページも何もやらない主義なので、どなたかがアップしてくださっていると、ひっかかってきますけれども、とにかく目立たないお寺でございますので、ご存知の方はごく少数かと存じます。

ただ、この年になってもまだこのお坊さんの世界では若造でございます。私、35年の生まれです。ですから普通の会社ですと定年間近ということになりますけれども、全然、こういう世界ですと、先ほどお話がありました伊藤永峯先生も、同じ真言宗智山派ですけれども、あの方はもう住職を超えて長老という立場で多氣山痔宝院を一生

懸命されている方ですけれども、そういう方がたくさんいらっしゃいますので、私はまだまだ小僧でございまして皆様にお話しできることがあるか、というとなかなか難しく、題名もこんな変な題名にさせていただきました。この中には石屋さんもいらっしゃると思いますが、お墓の事情に詳しい方も当然いらっしゃるはずですが、単なる現在こうなっているという話ではなくて、もうちょっとその次を何かお話しできたらいいかなと思って、本日はまいりました。

最近、広告なんかを見ていると、この辺の宇都宮でも樹木葬という広告がたくさん出てまいります。実際に宇都宮市内のお墓の事情をみても、各お寺さんの境内の墓地もいっぱいというところは少なくなってまいりました。だんだん空き墓地が出てきております。市の霊園を見てもたくさんあるんですけども、実際申し込む方は予定の数に満たない状況が続いているかと思えます。今、かろうじて人気になっているのは「芝墓地」というところですね。旧来のお墓を立てるのではなく芝生のところに、洋型というんでしょうかね、費用があまりかからないですむようなお墓のほうは比較的申し込みがあるみたいですが、従来のお墓については本当に希望が少ない、そういう事情が現代のところかなと思っております。

で、先日、私はNHKが好きなので、NHKの話をさせていただいていますけれども、「あさいち」という番組でお墓事情を取り上げておりました。それは一般的なお墓ということ以上に、納骨堂、あるいは樹木葬、そういうものがどんなバリエーションであるのか、というような番組だったと思えますけれども、樹木葬と一口で言ってもいろいろあります。もともと始まりというのは、岩手県のほうのお寺さんが始めた、山の中に1本木を植えて、その木の根元にお骨を納める、それがもともとの始まりで、樹木葬の由来だと思えますけれども、最近は違います。そういうものとはにかく場所が本当にたくさん必要なので、どこでもできるわけではありません。今でも千葉県のほうでもそういうものをされているお寺さんもあるみたいですが、現実的に樹木葬という名前で広告が出ているのは、1本目印になるちょっと大き目の木を植えて、その周りにカプセル状の穴をあけてそこにお骨を納めるような、そんな感じの樹木葬が注目を浴びているような気がいたします。あと、東京なんかに行くと、そういうものじゃなくてガーデン葬というんですかね、きれいな庭みたいのところちょっと石を置いて、石にはお骨が入っている人の名前などが書けるようになっているのだと思えますけれども、そういうガーデン葬みたいなものがけっこうあちこちでできていると。納骨堂もさまざまです。駅の近くにビルみたいなものがあって、そこに高いですね、番号などを押すと自分のお骨がポンと出てきてそこでお参りすることができる、というすごいシステムになっているような納骨堂、そんなものがいろいろ作られている。

で、あとは当然、一番安いというのか、費用がかからないのは合同のお墓ですね。一人ひとりではなくて、大勢の方が一緒に入るお墓。これが一番リーズナブルなんだと思えますけれども、そういうお墓も宇都宮市内のお寺さん、あちこちで作られていると思えます。ただ、そこに永代供養という言葉を使うかどうかは別にして、いろんな人が一緒に入るお墓というものが必要に迫られて各お寺さんが準備をしている。そういう状況だと思います。

ただ、そういう状況をお話ししたいと思っているわけではありません。そういうふうな状況になってしまうのはどうしてか、ということですね。当然、経済的な理由と

というのが一番大きなところかもしれません。従来のお墓ですと、普通に建てると100万円以上かかってしまいます。ですからそういうお金は出せない。だから何とかしようということではいろんなバリエーションが出てくるのだと思います。費用がかからないでお骨を納めるにはどうしたらいいか、ですね。ただ、それだけではないかもしれません。お子さんが遠くにいる、戻って来ない、じゃどうしようか、代々のお墓を作ってもしょうがない、じゃあ自分が死んだらどうなるんだろう、という方もたくさんおられます。当然、子どもがいらっしやらない方もそういう部類に入ってまいります。ですから単なる経済的な問題だけではないと私は思います。

もう一つ、これは私にとっては重要な問題なんですけれども、子どもに迷惑をかけたくない、だから自分は自分たちだけで入る場所を決める、そこに子どもたちは来ても来なくてもそれは後の問題、もし来てくれなくてもしょうがない、そんな意識でそういう樹木葬を選択している方がいらっしやる。これはお寺の住職としては大問題です。もしかしたらちゃんとしたお墓を作って代々守ることができる可能性はあるのに、そういう選択をしない。その迷惑をかける、どうしてか、ここが問題ですね。これが一番の問題だと思います。お寺として。先祖を守っていくことが負担になっているということですね。お墓を守っていく、家を守っていくということが負担になっているということなんです。これは大問題ですよ。会社を守っていく、それはそういうものだと思っているかもしれません。それと同じ感覚かもしれません。家を守っていく、お墓を守っていく。でもそれが負担になっている。そういう時代なんだと思います。普段の生活は普通にできているけれども、そういう親の供養とか、そういうことまで含めると大変だ、どうしてでしょう。どうしてそういう気持ちになっちゃうのか。

私も学者じゃありませんから、いろんな調査をしたわけではありません。ですから簡単にこうだということは言えないんですけれども、一般的に考えるならば、子どもに迷惑をかけたくない、親が子どものことを思っているという捉え方は当然できるわけですが、意外に親子の絆が弱くなってきている、という気がします。そこは二世帯住宅だとか、一緒に住んでないとか、いろんな事情があると思いますけれども、そういう事情の中で親子の関係が弱くなってきている、そういうことがすごくあるような気がするんですね。

皆さんのお宅はいかがでしょう。会社はきちんとしている。自分がいなくても会社は動く。ばっちりですよ。多分、ここに来られている方は大丈夫なんです。では、家のほうはどうでしょう。奥さんがしっかりして、奥さんがきちんとしている、だから大丈夫、と思っらっしやるのでしょうか。その奥さんが病気になっちゃったらどうしましょう。お寺のことは全然分からないという方が結構いらっしやるような気がします。なぜか分かりませんが、昔からでしょうか。神社は男の人が行くんですね。お祭りとか、いろいろ。でもお寺のほうは奥さんが出てるんですね。取り仕切っている。そんなお宅が多いような気がします。とにかく家がきちんと続いていく。先祖供養がずっと続いていくかどうか。これは本当に難しい。なかなか難しい時代になってきているような気がしております。それがこの社会状況。二世帯住宅で一緒に住んでいない、会話が少ない、いろんな事情があると思います。

ですから、そういう意味で言うと、私は各会社の皆さん方の、大きい会社になればなるほどかもしれません、最近社内で飲みに行く機会が少なくなっているという

お話しも聞いております。お互い社員の方同士の付き合い方も変わってきている。飲みに行くことだけがいいとは言いません。でも、お互いに会社を離れたところで社員同士の人たちがどういう付き合いをしているかということは、これは大きなポイントになってくるのかなと思います。なかなか難しい。本当に。でもそんな中で最近はそのことをもう一度見直して、社員同士の意思疎通をしていく。メールだけじゃだめですよ。メールだけでは何か分からないところがたくさんあるような気がします。相手の顔を見て話をしないと、なかなか本当のところ分からない。皆さん、そんなことをお感じになったことはないでしょうか。最近はもちろん、メール、時間もったいないですから、それで済ませられるものなら済ませたい、そういう流れだと思いますけれども、でも、本当のところは、会ってみないと分からない。そんな時代になってきているような気がします。とにかく会う。人と人とが話をする。これがすごく大切なことのような気がしております。

そうした中で、私は話をする、ただ話をするだけじゃなくて、実は食事をするということも、一緒に食事をする、一緒に酒を飲む、そういうこともすごくお互いが近親感を持つ、すごい道具になっているような気がするんですね。なぜか昔、昔からそうですけど、昔住職と一緒に飲んだことがあるんだよっていう、それが仲良しの一つのバロメーターになってるみたいで、とにかく一緒に飲む、一緒に食事をする、これが何か私は大切なことだと最近つくづく感じております。それは私がつくづく感じていただけではなくて、実は昔から、日本古来から、そういう傾向が、傾向ということじゃないんですかね、そんな意識があるような気がします。どういうことかということ、昔の話で申し訳ありません、古事記に出てくるんですね、古事記に。いざなぎといざなぎの話ですけども、とにかく奥さんが亡くなって、それを探しに黄泉の国に行くわけですよ。そして、奥さんを見つけて連れ戻そうとする時に、その時に、「私はこちら、黄泉の国で何か食べちゃった、飲んじゃった、食事をしちゃったので、もう戻れない」と言うんですね。行っただけなら大丈夫なんですよ、多分。食事をするとうこうの仲間になってしまうので、地上には戻れないんだ、というんです。

一緒に食事をするということは、その仲間になっちゃう。そういう意味で一緒に食事をするというのは昔から大切なことなんだろうと思います。で、この間、ちょっと別な本で、私は最近いろんなことを、かじっているだけなんですけれども、ギリシャ神話にもそのような話があるそうです。向こうの違う世界に行って一緒に食事をしちゃうと、こっちに戻って来られない。そんなことがやはり、日本だけではなくて世界にあるような気がします。一緒に食事をする。そうするとその仲間になっちゃうんだよ。その食事をするということが大切。で、物語じゃないですけども奈良時代とか平安時代とか、朝廷に与しない東北地方の蝦夷（えみし）という人たちがいたんですけども、その人たちを朝廷に従属させる、手なづけるために一緒に食事をしたということが書かれています。

とにかく一緒に食事をするということが仲間にする、こうれに本当に大きな影響があるんだという気がします。ですから家族の中でも会社の中でも一緒に食事をする。ですからロータリーのこの会合は、一緒に食事をしているわけですよ。これはすごいと思います。いつも同じメンバーじゃなくて、時々テーブルが変わったりメンバーが変わったり、そしていろんな話をしながら一緒に食事をする。で、時には別のところで酒を飲んだり。これが私は人間の絆をつくる上では大切なことなんだろうと思いま

す。ですからそういう意味では、とにかくお互いにメールではなく、スマホのこういうね、あれではなくて、実際に顔を会わせて、しゃべって、食べて、この食べる、この中で信頼関係が出てくるような気がしているんですね。ですからそれも皆さんにはお願いをしたいなと思っておりますけれども、それだけじゃなくていろいろ事情が変わって、ちょっと飛んでしまうかもしれません。

時間がないので話をちょっと飛ばさせていただきますけれども、お墓の事情がだいぶ昔と変わってきているという話を最初にさせていただきました。これは本当にお寺にとっても大変なことなんですけれども、それは葬儀についても言えます。直送というのが代表的な表現ですけれども、宗教者を頼まないで火葬にしてしまう。それは法律上は問題ないんですよ。ですから止めることは当然できないわけなんですけれども、それで本当に大丈夫なのか。当然、我々僧侶もいろいろ試行錯誤して、それじゃだめだ、どうしたらいいかと。そうした中でもっと大変な問題は、派遣のお坊さんがいる。ね、そういう人が宇都宮にけっこういらっしゃいますのでね。そういう問題、とにかく昔と全然変わってきてるんだよ、それをどうしたらいいの。無理ですよ。社会の流れをそれで変えることはできない。お寺といえどもやはり変わらざるを得ない。そういう時代だと思います。お寺も変わらざるを得ないんですけれども、そこで私は去年の秋、秋ですよ。ノーベル文学賞を取られたイングロさんの言葉がどうもね、すごく引っかかって、これはきちんと頭に置いておかなければならないと思ってんですけれども、「記憶と忘却」、この言葉が大切だなと思ってですね。言葉を変えて言えば、我々の、私的に言葉を変えれば、「伝統と変化」でもいいです。「選択と集中」でもなんでもいいんですけれども。

今まで守ってきた大事なところは守っていかなければいけない、それは基本ですよ。それと忘却。変えるところは変えなきゃいけない。ですからお寺といえども伝統があるからその通りやっていけばいい時代ではありません。変わんなきゃいけない。で、忘却。何かを忘れて、何かを捨てて何かをしなきゃいけないですね、新しいことを。それが求められている大切なことかな、と思っております。で、それはもともと変な言い方をすれば、忘却というのは本当は記憶にあるんだけど、それを水に流すっていう言葉のほうが適切なような気がするんですけども。昔、変なことあったけど、それは水に流しーから出直す、そういう水に流す、忘却。これは大切なことかな。そうしないと新たな一歩、新たな関係が、お互いの関係が生まれられないような気がするんですね。「昔、お前こんなことあったよな、だからおれはだめだよ」と言ってしまっただけの段階に行けないような気がします。「それはそうだ、分かった。それはもう認める。でも、気持ちを入れ替えてこうやるんだったら、それは水に流そう」という。新たな一歩を踏み出すためには、忘却というものは大切だとイングロさんは言ってるんだと思うんですけど。それは我々お寺としても大切なことだし、皆さん各会社でも、この忘却、大切なことかなと思っております

そういう中で、じゃお寺は基本何を残して何を忘れていくのか。これは難しい問題で、ここは試行錯誤です。お墓のありかたは変わっていく。昔のお墓にこだわってはいけないと私は思っております。考えてみれば昔も先祖代々の墓なんてないです。最近、一時的な、一時的って言ったら言い過ぎですけども、明治以降、特に戦後ですね。先祖代々のお墓というのは。その前は各個人のお墓だったと思います。それが先祖代々に変わってきたのが、戦後の流れだと思うんですけど。ですから変わってい

る。私がずっと伝統的だと思っているものは、実はそれほど伝統的でなかったりするんですね。

ですから何を守っていくのか。先祖代々の墓を守っていくんじゃなくて、先祖に対する思い、供養する思い、そういうものを守っていく。お墓を守っていくのはもしかしたら一番の目的ではないのかもしれませんが。親を思う気持ちとか、そういう心を大切にしていくことが大切なような気もしております。とにかく、それと同時に大切にしていくということは、亡くなった人、人間に対する畏敬の念というのが、ちょっと薄れてきている。だから、すぐ人を殺しちゃったり、亡くなった人をそのままにしておいたり。ですから、最近の水子の崇り、供養とかあまり言わないですよ。ああいいう、水子がいいという意味じゃないですけど、そういう我々が把握できないすごい力というものを、信じなくなってきたというか、なくなりつつあるような。でも、そういうものに対する思い、畏敬の念というのがあれば、やはり大切にしていくことは重要だと思います。お葬式のやり方とかお墓のあり方がどうのこうのではなくて、変わってもしようがないけれども、そういう思い、親に対する思い、あるいはすごい漠然とした大きな目に見えない何か力、そういうものに対する思いというものを、やはり我々は持っていかなきゃいけないかなと思います。

今はなんでも人のせいになります。地震も、被害もなんでも人のせいになっちゃうんですね。そうじゃなくて自然の力というか、それ以外の大きなうねりとかそういうものを感じる、意識していく。そうした中でやはりご先祖様とか、そういう自分ではどうしようもない、そういう何か、自分ではできない力というものを感じていく、意識していくということが、なんとなく大切なことのような気がしております。それから出てくる現代のいろんな事情は当然、時代とともに変わっていく。ですけれども、その奥にある大切にするものとはなんなのか。そこをやっぱり我々はこれから考えていかなきゃいけないのかな、そんなことを最近思っております。

お墓はちうでもいいというわけではないですけども、その奥にあることのほうがもっと大切なことのような気がしております。皆さん方も各会社で、社員同士いろんな思いが、数字だけの問題ではなくて、当然、数字が一番大切なのかもしれませんけれども、数字だけではない人の心の問題として、社員の気持ち、ありよう、そういうものをもう一度、意識していただければ幸いかなと思っております。変な話をさせていただきました。若干早いですけれども、これで終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

司会 福崎孝雄様、ありがとうございました。会長、謝辞をお願いします。

印出井会長 どうも福崎様、本当にいろいろありがとうございました。今、お話しにありましたように、やはり少し時代が変われば、考え方やシステムが変わる。しかし、基本、心の基本、発足した当時のものというのは大切にしなければいけない、そういうことだと思うんですね。福崎さんの前の成願寺というのは、新4号国道からちょっと東に行ったところの、こちらから行くと右側にあるんですけどもね。4代前ですかね、うちの印出井やはちというのが、前の和尚さん、やはり苦しかったんですね、あの当時。それでいろいろ地区の人に評判があまりよくないので、そのヤハチがお願いをして来ていただいたというふうなことで、小さい時に父親からその資料を見せられてるんですけども、その資料をなかなか福崎さんのほうに示そうとしても、ちょっと資料が多すぎて、どこにあるのか分からないんですけども。そういうふうな今の

話の中にもありましたけれども、成願寺はいろいろ変わりましたですね。歴史は古いんですけども苦しい時もあったと。で、変わって今はですね、檀家が栃木県トップクラスになってきて、今はお墓はないんでしょう？ 一般の人には。そういうことになってますよね。もうこれ以上。でいろいろ多くなりまして、よい評判が立っているようです。戒名料とかそういうものは一切、和尚さんは言いません。こちらのほうの気持ちだけでということ。違うんですか？ そういうふうなことも聞いてまして。父親とか母親とかには言われませんでしたので、ほんの気持ちだけというふうなことで。そういうふうに変わっていく。だからいいのかなと思います。どうぞ健康に気をつけまして、私が先に逝きますので、最期はちゃんと看取っていただきたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。健康に留意されて頑張ってください。どうもありがとうございました。

司会 次回の例会は1月23日、卓話は株式会社プラザヒカリ代表取締役副社長、三井勝茂会員。演題は「新春映画作品紹介」です。皆様の出席をお待ちしております。会長、点鐘をお願いします。

(点鐘)

今日の食事



- ・牛の煮物
- ・ほうれん草のおひたし
- ・ご飯
- ・味噌汁
- ・お新香

会報委員 小林健二委員

写 真 加藤雅敏委員